

## 多様性ある社会の可能性をテーマに9/27ダイアログ開催 難民支援協会（JAR）設立15周年記念イベント



認定NPO法人難民支援協会（東京都新宿区・事務局長 石川 えり）の設立15周年を記念して、「支援」活動とはどうあるべきかー、多様性のある社会はどのような可能性があるのかー、社会を変えるために市民社会が果たす役割とはー、をテーマに、「JAR15周年記念ダイアログ For Refugees, With Refugees ー難民のために、難民と共にー」を開催します。国内外で専門家として支援活動を展開するNGOスタッフ、企業のCSR担当者、移民・難民分野の研究者、LGBTの難民支援に取り組む弁護士、在日ビルマ難民の方をお招きし、今後の支援活動のあり方や未来の社会のビジョンについて語り合います。ご取材、お願いします。

第一部『「支援」活動とは？ー支援活動の現状と課題を考える』では、「支援」活動の現場では、どのような課題があり、今後、どのようなあり方が求められるのでしょうかを、国内外で支援活動に携わる方々を登壇者に迎え、様々な分野での支援活動の現状を紹介しながら、「支援」の課題とあり方を探ります。第二部『市民社会と今後の社会の在り方を考える』では、社会の多様化に対して、「他人事ではなく自分事」をキーワードに、一人ひとりが社会課題にどう取り組めるのか、市民社会が果たす役割やNGOとの連携の可能性について議論します。

### <JAR15周年記念ダイアログ 詳細>

日時 | 9/27(土)14:00~17:00・開場 13:30  
場所 | 明治大学 駿河台キャンパス  
リパティタワー 1012 教室  
(御茶ノ水駅から徒歩3分)

参加費 | 無料

定員 | 100人

\*詳細・お申込み(当日参加も可能)はこちら  
<http://refugees.jp/15thdialogue>

### ▼登壇ゲスト

#### [第一部]

- ・海老原 周子／新宿アートプロジェクト 代表
- ・大関 輝一／みちのくふる里ネットワーク代表理事・大船渡市市民活動支援センター 代表
- ・橋本 笙子／ADRA Japan 事業部長  
(ファシリテーター)石井 宏明／JAR 常任理事

#### [第二部]

- ・明石 純一／筑波大学 准教授
- ・嶋田 実名子  
／公益財団法人 花王芸術・科学財団 常務理事
- ・永野 靖／弁護士
- ・チョウチョウソー／ビルマ難民  
(ファシリテーター)石川 えり／JAR事務局長

### ■本件に関するお問い合わせ

認定NPO法人難民支援協会 広報部 田中

〒160-0004 東京都新宿区四谷1-7-10 第三鹿倉ビル6階 Tel:03-5379-6001 | Fax:03-5379-6002 | [info@refugee.or.jp](mailto:info@refugee.or.jp)

### 難民支援協会(JAR)とは [www.refugee.or.jp](http://www.refugee.or.jp)

1999年設立。日本に逃れてきた難民が、自立した生活を安心して送れるよう支援している認定NPO法人。難民申請の手続きや、日本での医食住、教育、就労などに関する支援を行うと同時に、難民受け入れに関する政策提言や、イベント「Refugee Talk」(月1回)、「難民アシスタント養成講座」(年3回)などの開催を通じた認知啓発も実施。年間の支援対象者の国籍数は約50か国、来訪/外部相談件数は2,500件以上(2012年度実績)。

国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)の事業実施契約パートナーとして活動。

(参考情報)

## イベント内容・登壇者プロフィール紹介

\* 詳細はこちら <http://refugees.jp/15thdialogue>

### 第一部:「支援」活動とは?—支援活動の現状と課題を考える

「支援」活動の現場では、どのような課題があり、今後、どのようなあり方が求められるのでしょうか。国内外で支援活動に携わる方々を登壇者に迎え、様々な分野での支援活動の現状を紹介しながら、「支援」の課題とあり方を探ります。

#### ▼海老原 周子氏／新宿アートプロジェクト 代表



慶應義塾大学卒。IOM 国際移住機関フィンランド事務所にてインターンとして難民の第三国定住事業に携わる。(独)国際交流基金に入社後、芸術文化交流を担当。文化と文化、言葉と言葉、国と国の間で育った経験から、新宿大久保にて移民や日本の若者と芸術家とのアートワークショップ事業を行う。アートを通じて多様性を楽しみ、人生の糧となる経験を作りたいと思い、(独)国際交流基金を退職。非営利団体新宿アートプロジェクトを立ち上げる。

#### ▼大関 輝一氏／みちのくふる里ネットワーク 代表理事・大船渡市市民活動支援センター 代表



大学時代、阪神淡路大震災での震災ボランティア活動を契機に震災ボランティア活動を続ける。3.11 以後、岩手県大船渡市に拠点を張り、大船渡市を中心に沿岸被災地の災害支援にあたる。もやい生活相談員として生活困窮者の生活再建支援に携わった経験から「災害と貧困」の問題を提起。災害が貧困層を直撃することに加え、新たな貧困層を生み出し日本の貧困問題がすでに深刻化していることに警鐘を鳴らす。2012 年から地元住民、大船渡市、NPO、資生堂などの企業と大船渡の市の花・椿の復興のまちづくり活動を始め、2013 年に被災沿岸初の公設民営の大船渡市市民活動支援センターを創設。現在は被災した事業者と共に地域資源を使った 6 次産業化事業を進める。

#### ▼橋本 笙子氏／ADRA Japan 事業部長



システムエンジニア、短大講師の傍ら、野外活動指導者として青少年育成活動に携わる。1988 年、ADRA の青年海外ボランティア活動に参加し、その後も仕事を続けながらボランティアとして海外プロジェクトに参加。1996 年に ADRA Japan のスタッフとして広報を担当し、1999 年からは団体の運営・事業全般に関わる。現在は事業部長として、緊急救援事業、開発支援事業、国内事業全般を統括している。2児の母。

#### ファシリテーター:石井 宏明／難民支援協会 常任理事



一般企業退職後、米国モンレー国際大学院で 1994 年修士号(MA)取得。1995 年アムネスティ・インターナショナル日本勤務を皮切りに、ピースウィンズ・ジャパン(1997-2006)、難民支援協会(2006-現在)で NGO 職員として活動。国内外での難民支援、NPO 法人制度改革に尽力。現在、難民支援協会常任理事として、政策提言や被災地支援事業等に従事。一橋大学 国際・公共政策大学院 非常勤講師(NGO/NPO 論)

## 第二部：市民社会と今後の社会の在り方を考える

社会の多様化に対して、市民社会はどのような役割を果たせるでしょうか。第二部では、様々な立場の方を登壇者に迎え、「他人事ではなく自分事」をキーワードに、一人ひとりが社会課題にどう取り組めるのか、市民社会が果たす役割や NGO との連携の可能性について議論していきます。

### ▼明石 純一氏／筑波大学 准教授



筑波大学大学院国際政治経済学研究科修了。博士(国際政治経済学)。移民政学学会理事。著書に『入国管理政策：「1990 年体制」の成立と展開』(ナカニシヤ出版)、編著に『移住労働と世界的経済危機』(明石書店)。大学では、政治学・公共政策学の観点から、国際人口移動と移民政学について講義。筑波大学社会貢献プロジェクト「定住外国籍児童に対する『職育』プログラム」代表。

### ▼嶋田 実名子氏／公益財団法人 花王芸術・科学財団 常務理事



2000 年より、花王株式会社の社会貢献分野の責任者として、活動理念と方針を策定。2004 年より、社員の自発的な寄付組織を立ち上げ、途上国の NGO の活動や、自社の工場立地地区での NPO の活動などにも社員寄付による支援を開始する。2003 年より、公益財団法人花王芸術・科学財団の常務理事(兼)事務局長を兼務。2006 年より、CSR／サステナビリティ推進部の責任者もつとめ、広く CSR 活動全体の推進も担当する。2013 年 10 月、花王株式会社を定年し、財団の業務を引き続き担当して、芸術文化部門と科学技術部門の助成活動や、市民のためのシンポジウムなどを企画している。社外活動として、公益財団法人助成財団センター評議員、公益財団法人共用品推進機構評議員、東京国立博物館評議員会評議員等、社会貢献から文化活動まで広く携わる。

### ▼チョウチョウソー氏／ビルマ出身の難民



ビルマ軍事政権の弾圧を逃れ、1991 年に来日。レストランで働きながら、祖国の民主化を求める運動を続け、1998 年によく難民認定を受ける。翌年、妻を呼び寄せ、2002 年にビルマ料理レストラン「Ruby」(高田馬場)をオープン。NHK ビルマ語放送のキャスターを務める傍ら、祖国の民主化を諦めることなく、日本で 22 年もの間活動を続けている。夫妻のこれまでの人生はドキュメンタリー映画「異国に生きる」で取り上げられた。

### ▼永野 靖氏／弁護士



東京弁護士会所属。商工組合中央金庫において中小企業融資に携わった後、弁護士を志し、2000 年 10 月弁護士登録、東京南部法律事務所を経て、永野・山下法律事務所事務所設立。「町の弁護士」として日常的な法律問題の解決に取り組むとともに、労働事件、消費者事件、医療事件等様々な事件を幅広く手がけながら、ゲイ、レズビアン、トランスジェンダー等性的マイノリティの相談に対応。2007 年に LGBT 支援法律家ネットワークを結成、活動の一環として LGBT の難民の法律支援にも取り組んでいる。

### ファシリテーター：石川 えり／難民支援協会 事務局長



上智大学法学部国際関係法学科卒業後、企業勤務を経て 2001 年より難民支援協会に職員となり、主に調査・政策提言の分野で国内外にて活動。難民問題にはルワンダにおける内戦を機に関心を深め、同協会には設立前よりボランティアとして関わった。2008 年 1 月より現職。共著として、『支援者のための難民保護講座』(現代人文社、2006 年 10 月)、『外国人法とローヤリング』(学陽書房、2005 年 4 月)ほか多数。2児の母。

(以上)